

薬機法による禁止表現と行為について

昨今、薬機法の定義や取り締まりが厳しくなりました。違反行為者の販売禁止はもちろんのこと、商品を扱う会社、商品自体にも行政指導や罰則が課されますのでくれぐれも厳守していただきますよう宜しくお願い申し上げます。

「安心」「安全」「治る」「効果」「改善」などの表現を使うことは厳禁です。

- ① 疾病の治療又は予防を目的とする効果効能
(例)「生活習慣病の予防」「ガンに効く」「便秘が改善」「アトピーが治る」
- ② 身体の組織機能の一般的増強、増進を主たる目的とする効果効能
(例)「疲労回復」「体力増強」「新陳代謝を高める」「老化防止」
- ③ 医薬品的な効果効能の暗示
(例)「便秘気味の方に」「体質を改善する」「血圧の気になる方に」

具体例

- *「便秘解消」は体の具体的変化を謳っていることになりNGです。また「お通じの改善」は「便秘改善」の示唆になりNGです。「〇〇を改善」はNGワードです。
- *「腸」など特定部位の変化をうたうことは出来ません。「体」に変えるか、「中からキレイ」くらいしか言えません。
- *ビフォーアフターの写真の張り出し、掲載、SNSに投稿することはNGです。もちろん文言の使用も禁止です。
- *「〇〇の商品の安全性は証明されています」など、医学薬学上で認められた範囲から逸脱された表現には注意が必要です。
- *「〇〇」が治るといった表現の使用は絶対にNGです。たとえば、「あせもが治る」「特定の病気が治る」などの表現をした場合、行政指導や禁固刑を受けるケースもあります。
- *「ダイエットに効果的」「便秘予防に効果的」などの表現は同じ商品を使ったとしても、人それぞれ効果効能が異なります。したがって、人によって効果効能が異なるのであれば、上記のような表現は消費者に誤解を招く可能性があるため、使用は避けるべきです。
- *「医師の推薦」もNGです。一般消費者に権威性などの認識を与える可能性が大きいとされています。